

資料2 高次脳パソコンプログラム（高次脳PC）について

目的：パソコンを活用したテスト課題を用い、統一した方法で精度の高い検査を行い、異常症状の検出、治療経過の評価、また、リハビリテーションそのものに役立てる。

対象：高次脳機能障害支援モデル事業の対象者及び身体障害者福祉センターの施設入所者又は附属病院の入院・通院患者で高次脳機能障害を呈する者並びに疑われる者等。

使用機器：デスクトップ型PC＋タッチモニター

協力機関：京都大学霊長類研究所（三上章允教授）

テスト課題

（1）空間位置の判断、記憶に関係した課題

①単純反応課題（単純到達課題、MG課題）

刺激が提示された場所に反応する課題。

②遅延反応課題（遅延到達課題、DR課題）

8つの場所の一つを憶え、記憶期間の後に答える。

③遅延順序課題（DRS課題）

DR課題では、1箇所を憶えていればよいが、正解を続けると憶える刺激の数が増え、複数の場所とその順序を憶える課題。（何度か正解すると数が増え、間違うと減る。）

（2）図形の識別、記憶に関係した課題

①孤立項目課題（OD課題）

一つだけ異なる図形を見つける課題。

②遅延見本合わせ課題（PR課題）

図形の記憶の課題。

③遅延順序見本合わせ課題（PRS課題）

図形とその呈示順序の記憶課題。DRS課題と同様、正解が続くと図形の数が増える。

（3）注意のシフトや反応抑制に関係した課題（図形を用いているので、図形の識別・記憶も必要となる。）

①注意シフト課題（AS課題）

2つ呈示される図形のうち、1つが正解図形となっており、何試行か正解が続くと別の図形が正解図形になる。途中で図形ではなく、図形の上に描かれた線が手がかりに変わる。

②ゴー・ノーゴー課題（Go・Nogo課題）

図形によって、ゴー反応するかしないか（しない場合はノーゴー）が決められており、何回か正解が続くとゴー反応する図形が変わる。

③デュアル課題（Dual課題）

DR課題の遅延時間中にGo・Nogo課題を行う。

評価法：評価項目は正答率、反応時間、個々の課題の所要時間、到達レベル等。

標準的な課題を基本としつつ、利用者の状態で、課題を組み合わせて用いる。